

# 平成30年度 第2回上牧町総合教育会議 議 事 録

- 日 時 平成31年3月28日(木)午後3時00分から午後4時20分まで
- 場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
- 出 席 者 今中町長、松浦教育長、暁委員、東谷委員、宮城委員、渡邊委員
- 事 務 局 塩野部長、丸橋課長、森本課長、千葉指導主事、岡田指導主事、  
中川理事、俵本課長補佐、日高係長

- 次 第 開会  
案件
  - 1 国際交流について
  - 2 夏休み期間について
  - 3 中学校版ペガサス教室について閉会

## ●議事概要

### 教育総務課課長より、案件1 国際交流について説明

今中町長 議会でも委員会の中で教育委員会の方から説明を行った。金額的な部分等について少し質問はあったが、英語に触れる目的であることは議員さんにも認識をしてもらっている。台湾も日本同様、第一言語は中国語で英語ではない。そういう点では同じ環境であるが、昨年度交流に来てくれた子どもや先生は英語をととても流暢に話しておられ、感心した。どういう教育をされているのか、とても興味がある。子どもだけでなく、学校の先生にもそういった部分を肌で感じとり、台湾の学校での取組や先生の考え方を習ってほしい。

松浦教育長 昨年度の交流の内容が非常によかったということで、桃園市の校長先生が上牧町に強く興味を持ってくださり、引き続き学校間交流をしてみないかという言葉を交わして別れたのが昨年6月。国際感覚に満ちた英語教育を第二語学科のような形で重点的にしている国だということで、そういう学びを本町でもすすめていきたいと考えている。まず本年度は桃園市へ行き、学校間交流を行う。町長も一緒に行く予定で、桃園市の市長さんに会えるかを現在調整中。将来的には提携を結び、役場に台湾の国旗と日本の国旗を並べ、こういうことをやっているのか町民さんにも周知していけるような事業を展開していきたい。小学校では、来年度から外国語教育が3・4年生で必修となり、5・6年生で教科化となる。評価が通知表につくので、みんな敏感になっている。本町ではそういった取組をしながら、興味関心を持つ生徒をたくさんつくっていききたい。本来ならばすべての子どもたちにそのチャンスを与えてあげたいが、受入側の人数の制約もあり、30名となった。多くの希望者が出た場合、オープン抽選とし、不平等感無く決定できたらと考えている。

丸橋課長 事業費は引率者10名を足し40名で、1人あたりの費用が108,000円なので計4,320,000円が事業費になる。保護者には5割負担いただくので、54,000円が保護者負担分になり、30人分を財源という形で1,620,000円が町に入って

くる予定。生活困窮者の世帯については一応減免の対応を考えている。要保護の世帯については保護者負担額の全額免除、準要保護では保護者負担額の7割減免をする。特別支援学級に入級している児童生徒は、通常と同じ5割分の保護者負担と考えている。

渡邊委員 隔年か、毎年か。交互に行ったり来たりするのか。

松浦教育長 隔年。平成31年度は桃園市へ行き、平成32年度は来ていただく。台湾の保護者と子どもは日本へ来てホームステイをしたいというのが1番の目的のようである。日本の古文化に触れて、家で寝食を共にしたいという家庭が多い。再来年度の受入の際には、台湾と交流していることを町民さんにも分かってもらえるよう様々な方法で周知し、町全体へ募集、関心のある方に手を挙げていただけたらと考えている。

今中町長 受け入れてもらう場合の費用負担は、条例や法律的なものを整備して、町からいくらか費用負担をさせていただくという考え方も検討する必要がある。家庭によっておもてなしのばらつきが出ないように一定の要綱的なものもつくっておく必要があるだろう。

暁委員 受入ができる生徒の家庭を募集するとなると申し込まれる方が極端に減ると思う。それならば行かせることができないという家庭も増えてくる。町内全体に受け入れてくれる家庭を募集するというのは、よい方法。ホームステイ先によって差が出るというのは問題なので、ある程度の線引きは必要。

東谷委員 台湾の子どもを受け入れる場合、漠然と日本の文化を体験するという風になると個々の家庭に任せただけでは、なかなか難しい。町の方でしっかりと内容を考えてあげてほしい。現段階では派遣先を台湾に限ってすすめているが、先々には台湾に限らずに英語圏の国も入れてすすめていけたらよいと思う。

今中町長 これがしっかりと認知され、定着し、実績があがって英語圏へ子どもたちをとというのが理想。しかし、英語圏の場合には費用がかかるので、5年後10年後に一度チャレンジしてみるということも考えていく。

暁委員 英語に本当に触れるのであれば英語圏に行った方がよいが、長く英語を勉強しておきながら英語が話せない人間がこれほど多い国はアジア圏でも日本くらいではないか。教育としてどういう風にされているのか先生たちの勉強の場も含めて台湾のように英語を指導されている国に行くというのはすごくよいこと。長く続けていくためには、ただ行くだけでなく、行った子と先生方、関わった人たちが町内の子どもたちにどういう風に還元できるかも含めて考える必要がある。

東谷委員 言語別の人口は圧倒的に中国が多い。これからは中国語と英語が世界の言語になってくるということも考えると、両方兼ねている台湾にまず行くというのはよい。

今中町長 台湾、中国と先を見越した形で考えると理解してもらいやすいかもしれない。できるだけお金がかからないよう考えながら、いいものを見つけていきたい。今回の意見も含め、平成31年度にまとめて説明ができるようにする。

### 教育長より、案件2 夏休みの期間について説明

今中町長 学校側からも従来通りに行うとコマ数が足りなくなるという話があった。何が子どものためになるのかということを考え、先生の意見も聞いた上で、他の市町村と同様前倒しを行う方向になった。それに伴い、先生方の負担が増え、教員の働き方改革を阻害する形になってはいけないので、学校閉鎖日を設けている。

東谷委員 先生が1番悩んでいるのは、授業日数の確保ができないこと。2番目に残業時間が長いということ。新学習指導要領がはじまり、小学校では3学年から上は35時間、中学校でも授業日数は変わらないが実質は35時間増え、絶対数は足りない。前倒しを行うことによって授業時数の確保ができるので安心。

暁委員 祝日や代休等で月曜日が抜けたり、災害等で休校になったりすることを考えると、ある程度の余裕を持った授業数を確保しておく必要がある。ゆとりがあれば、反復学習する時間にも使えるので、基礎的な学力を身につける時間が増える。学力の底上げにもつながり、エアコンをつけた意味が学習にも反映されてよいと思う。

今中町長 高校、大学、子どもの将来を考えたときに、我々はその基礎部分をしっかりと担う必要がある。そういったことも踏まえ、1週間前倒しの方向ですすめていく。

### 教育総務課長より、案件3 中学校版ペガサス教室について説明

今中町長 ほほ笑い教室があり、療育があり、ペガサス教室があり、それが中学生になるとぷつんと切れてしまうため保護者は心配をする。また本人にも不安感が広がる。先日、知事との意見交換会で中学校版ペガサス教室を提案した。県に先生を派遣してもらわないといけないので、そういう部分も含めて要望したところ、知事も一緒にやりましょうとおっしゃっている。県の教育長とも話をし、これからいい方向で進められるよう勉強会をしようということになっている事業。ただ今のように1か所とするのか、それぞれの学校とするのか、費用の問題もあるので、どういった方法がよいのかを模索している。この付近の基幹の町として行っていきたい。初年度からは難しいが、将来的には広域的な部分も考えている。ほほ笑い教室の療育から小学校版ペガサス教室、中学校版ペガサス教室とつなげていけるようにしていきたい。上牧町に住めば手厚い通級をしてもらえるとということで、移住を考えているという話も実際聞いているので、子どもにとっても親御さんにとっても町にとってもよいことだと思う。

暁委員 上牧町を拠点に周りの町を巻き込んでということになると、他の町から対象の子どもたちが来るということか。保護者が連れてきて小学校と同様に行われるのか。

- 松浦教育長 昨年・今年は、県の指定を受けて通級訪問指導をしており、王寺町や河合町、広陵町へ出向いていく先生を1人配置している。初年度から中学校で同じことをするのは難しいので、平成32年度は上牧中学校、上牧第二中学校だけの通級指導教室をしっかりと計画させて形にし、その後王寺町と河合町も一緒に行う形で広げていきたい。
- 今中町長 県の教育長とも話をしたので、これからしっかりとみんなで勉強しながらやっていきたい。あとは、皆さんにうまく周知ができていない部分を改善していく。
- 渡邊委員 役場に行かなくても分かるように広報をもっと活用してもらいたい。
- 暁委員 これまでも町民さんの口コミで広がっているところが大きい。
- 東谷委員 3か月検診等で親御さんが来る機会を逃さないようにしたい。そのときに「こういう制度がありますよ」と、こども支援課と福祉課が一緒になって知らしていくべき。総合的な広報を考えてほしい。
- 今中町長 スマートフォンの普及により、家庭内外問わず、コミュニケーションをとる機会が減っているが、小学校、中学校、高校、大学、社会人と年齢があがるにつれ、コミュニケーション力が問われるようになる。便利なツールを活用するのはよいことだが、最後は人対人、心対心だと思う。自分の意見を言う、相手の意見を聞く、議論をするといったことも授業の中で積極的に取り入れながら、様々な経験を経て、中学校を卒業してもらいたい。今後も教育環境をしっかりと整えながら少しでも子どもたちの力がつくように、教育委員さんとも協力し、みんなで考えを出し合いながらよい町をつくる、よい教育にしていけるようお願いしたい。

閉会